第11回品川区中学生の主張大会 開催!

平成22年12月4日(土)、荏原文化センターにて「第11回品川区中学生の主張大会」が行われました。

伊藤学園を代表して、9年生の山森明子^{やまもりめいこ}さんが参加しました。発表の演題は「いのちのバトンをつなぐ」で、市民科の授業で行った「命」を考える学習を通して考えたことについて、率直な意見が述べられました。子どもに対する虐待が増加している中で始めは母親が悪いと思っていたけれど、保育園での実習を通して子どもたちがなかなか言うことを聞かないことを知り、母親のいらだちも分かるようになったこと。そういう母親を周囲の人間がサポートすることによって、虐待を防ぐことができるのではないか、という主張に対して、審査員から「人間の感情の負の部分の部分を語ったところに素晴らしさがある」と評価され、優秀賞をいただくことができました。身近な人同士が心をつなぐことによって、いのちのバトンがつながれていく、そういう社会でありたいと願っています。

(伊藤学園副校長 中嶋 記)

富士見台中学校を代表して、9年生の郷原拓海^{ごうはらたくみ}くんが参加しました。発表の演題は「マナーとは何か」で、日常生活のなかで遭遇した事例を取り上げました。マナーの良し悪しは年齢に関係なく、その人自身の問題であり、マナーを向上させるには、冷静に自分自身の行動を見つめ直すことが必要だということを堂々と主張しました。自らが体験したことを具体的に主張し、とても説得力がありました。

大会後、郷原くんは各中学校の代表の中で主張して、「緊張して手が震えた」と話している一方で、やり遂げたという自信に満ちた感情が印象的でした。

学校行事や進路に向けた学習が大変な中、原稿の作成や朗読の練習ご苦労様でした。大勢の前で自分の考えを主張できる機会は多くないので、いい経験になったと思います。

(富士見台中学校教諭 高橋 記)

学校めぐり

「小中合同連携作品展」においでください ～伊藤学園～

小中合同連携作品展は、平成18年度から小中一貫教育が始まったこととともない、その成果を保護者や地域その他の皆様に広く見ていただくことを目的として始めました。第1回は日野学園、第2回は伊藤学園を会場として、区内全校の作品を展示し、平成20年度からは小中連携グループごとに行っています。大井第一小学校・伊藤学園グループは、伊藤学園を会場として2年続けて行い、今年度は大井第一小学校で開催します。

日時 2月3日(木)～5日(土)
午前9時～12時 午後1時30分～4時(3日間とも)
会場 大井第一小学校 体育館(3階)
出品教科 図工・美術、書写、理科、家庭、技術(伊藤学園)、
ひまわり組・6組(伊藤学園)

両校児童・生徒の、日ごろの学習の成果を發揮した作品を多数展示いたします。
寒い時期ではありますが、ぜひ多くの皆様にご参観いただきたく、ご案内申し上げます。
(伊藤学園統括副校長 羽鳥 記)

振り込め詐欺にご注意! ～体験例(4)～

5年くらい前の事です。オレオレ詐欺らしき電話を3回受けています。子どもの名前が違っていたので、被害を受けずに済みました。1回目は「もしもし、お母さん。オレだけど」、「オレって誰?」、「だよ」、「エッ?」、「だよ」、「うちには って息子はいませんけど」、「・・・」ガチャン!!

2回目は「お宅の息子の さんが私の車に傷をつけたので修理代を払ってくれ。息子を預かる。」と言うのです。「息子に代わって下さい。」、「もしもし」、「無免許で誰の車を運転したの? そんな事をする息子に育てた覚えはない!!」と説教までしてしまい、車の持ち主には「本人が自分の名前を間違えるわけないでしょう? うちには という息子はいません。」とこちらから電話を切りました。

3回目は「こちら山手線新宿駅の公安警察の者ですが、お宅の息子の 君が車内で、痴漢行為の現行犯逮捕され、ここにいます。本人を電話に出すことはできませんけど、息子さんを犯罪者にしたくないでしょう。お母さん、弁護士さんを紹介しますからその方と話して下さい。」と私が何も言わないうちに「もしもし・・・」物静かな男性の声。「あの一、本当にうちの息子でしょうか?」「はい、息子さんの学生証で本人確認をしています。

大学××学部 君ですね。」、「すみません。その方うちの息子ではありません。」こちらから一度も子どもの名前を言わなかった事。名前の読み方が特別だった事がこんな時に役立つとは思いませんでした。

(編集委員会 記)